

I 千葉市の高等学校改革

1 改革の背景・経過

平成3年4月に中央教育審議会から提出された答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」を皮切りに、情報化や国際化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応するため、全国的に高等学校改革が広がった。

本市教育委員会では、魅力ある高等学校づくりを推進するため、「千葉市立千葉高等学校改築基本構想及び（同）基本計画」・「千葉市における中高一貫教育について（第2次報告）」（平成14～15年度）等の答申を踏まえ、教育委員会内部に設置した検討会議「千葉市立高等学校在り方研究会」（平成15年度）で聴取した学識経験者、保護者等の外部の意見や提言等を総合的に勘案し、千葉市としての高等学校改革の方針として、平成17年6月に「千葉市立高等学校改革基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定した。

その中で、千葉市立千葉高等学校（以下「市立千葉高校」という。）については、千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール※1研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、単位制を導入することが適当であるとされ、平成19年度入学生（普通科）から、進学を重視することができる単位制に移行した。

また、千葉市立稲毛高等学校（以下「市立稲毛高校」という。）については、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール※2研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間の計画的・継続的な指導により、コミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入することが適当であるとされ、平成19年4月に、「真の国際人の育成」を中高一貫教育目標とし、千葉県初の併設型公立中高一貫教育校である千葉市立稲毛高等学校附属中学校（以下「附属中学校」という。）が開校した。

※1 スーパーサイエンスハイスクール（通称「SSH」）

文部科学省が、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目的に平成14年度から行っている事業で、指定された高等学校は高度な理数教育に取り組むとともに、学習指導要領の枠を超え、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関と連携した講座や実習などを行う。なお、指定期間は5年で、国から総額約6千万円の助成を受けることになり、期間を終え、再指定を受けることもある。

※2 スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（通称「SELHi」）

平成14年度から開始された日本の高等学校における先進的な英語教育を研究するための文部科学省主導のプロジェクト。指定された高等学校は、研究予算が支給され、重点的に英語教育に取り組むこととなり英語教育に重点をおいた教育課程・カリキュラムの開発や中学校や大学との英語教育の面での効果的連携のあり方を研究していく。一度SELHiに指定された場合、以後3年間研究活動に取り組むこととなる。なお、本事業は平成21年度をもって終了した。

2 千葉市の高等学校改革の概要

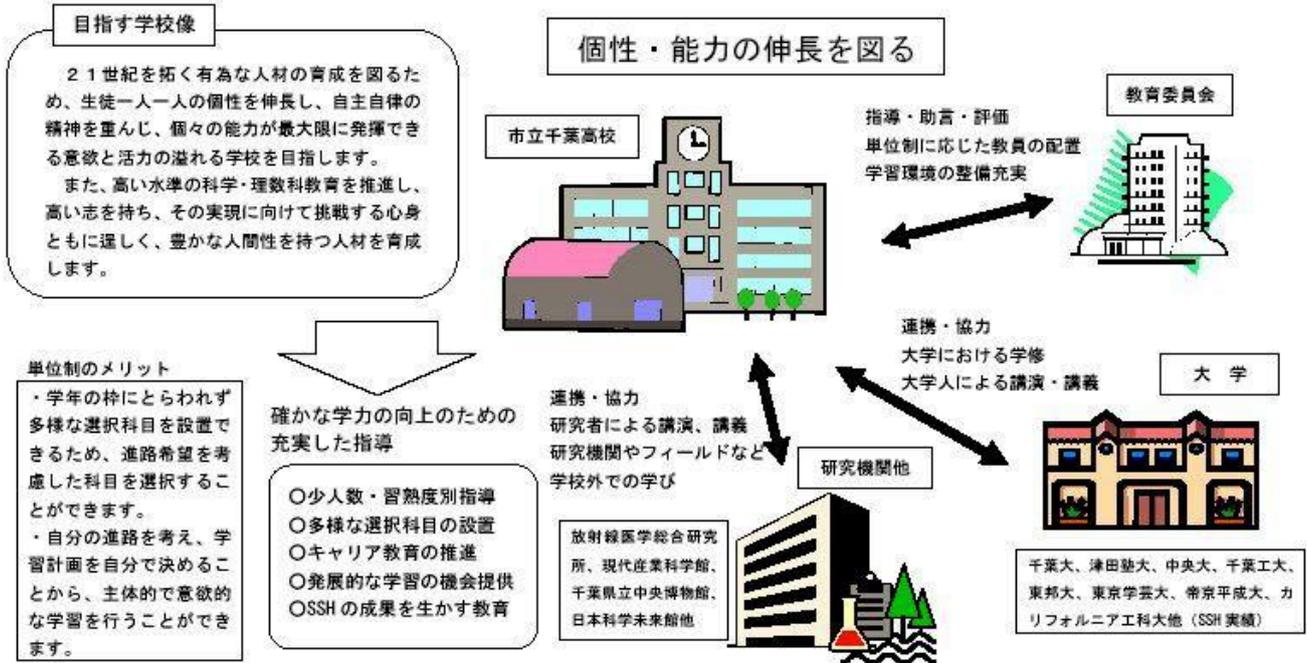
	市立千葉高等学校	市立稲毛高等学校
背景	<p>○情報化社会や国際化社会をはじめとする社会の変化</p> <p>○進路ニーズや教育ニーズの多様化</p> <p>→これらに対応するとともに、これまでの文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、平成17年6月に「基本方針」を策定</p>	
経緯	<p>平成13年度 「千葉市における中高一貫教育について」 千葉市中高一貫教育研究会議報告書</p> <p>平成14年度 「千葉市立千葉高等学校改築基本構想」 「千葉市における中高一貫教育について」 千葉市中高一貫教育研究会議第二次報告書</p> <p>平成15年度 「千葉市立千葉高等学校改築基本計画」 「千葉市立高等学校在り方研究会」</p> <p>平成17年6月「基本方針」</p>	
「基本方針」に基づき導入した制度	千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に 単位制を導入	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間の計画的・継続的な指導によりコミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す 中高一貫教育を導入
導入時期	平成19年度入学生から	平成19年度に附属中学校開校
特色	<p>進学重視型単位制高等学校</p> <p>1・2年生のうちに必修科目をほぼ終わらせ、3年生で独自に設定した科目も含めた多様な選択科目から、進路希望に沿って学ぶことができるようにする。全員が1日45分7時間授業を受ける。</p>	<p>真の国際人を育成する中高一貫教育</p> <p>中学では、年間総授業時数が標準1,015時間のところ1,185時間を展開し、中高6年間の一貫教育の利点を生かし、体系的なカリキュラムに基づく継続的な指導と先取り教育を行う。高校2年次に全員が英検2級を取得でき、卒業までにはTOEIC※で650点取得できることを目指す。</p>
学科・学級数 (平成25年度)	<p>全校24学級</p> <p>1学年 普通科7学級(単位制) 理数科1学級()</p> <p>2学年 普通科7学級(単位制) 理数科1学級()</p> <p>3学年 普通科7学級(単位制) 理数科1学級()</p>	<p>中学校(全校6学級) 各学年2学級</p> <p>高等学校(全校24学級)</p> <p>1学年 普通科7学級 (内進生2学級、外進生5学級) 国際教養科1学級</p> <p>2学年 普通科7学級 (内進生2学級、外進生5学級) 国際教養科1学級</p> <p>3学年 普通科7学級(混合クラス) 国際教養科1学級</p>
施設の状態	平成20年4月から新校舎(全面改築) 供用開始	平成20年10月に中学特別教室棟(多目的ホール) 竣工。その他の施設は中高で共用。

※TOEIC: Test of English for International Communication の略称で、国際コミュニケーション英語能力を評価するテスト

(参考1) 「基本方針」に基づき作成した周知用資料(平成17年度)

千葉市立千葉高等学校 単位制導入へ

～千葉市立千葉高等学校は、平成19年度入学生より、単位制を導入します。～



千葉市立稲毛高等学校 中高一貫教育導入へ

～平成19年4月より、千葉市立稲毛高等学校附属中学校(1学年2学級)を開校します～

